

新潟市會津八一記念館蔵


東洋美術史家・書家・歌人
會津八一

ひそみきて たかうつかねそ さよふけて
ほとけもゆめに いらたまふころ

(ひそりとやって来て、誰がお参りの「かね」を打っているのだろう、夜もすっかり更け、仏も夢にお入りになる頃だというのに……)



歌集『観音堂』の一首を刻んだ歌碑（太總寺）



『観音堂』で詠まれた鉦



百体観音（太總寺）

會津八一（明治14～昭和31年）は新潟市に生まれ、早稲田大学名誉教授（文学博士）。東洋美術史家としてはもちろん、書家、歌人としても有名です。代表歌集に『鹿鳴集（ろくめいしゅう）』『山鳩』があります。

胎内市とのつながりは旧中条町、西条の丹呉家で養育されたことによります。北越の豪農、市島家一族出身の政次郎は縁戚関係にある丹呉家で成人したのち新潟市古町の會津屋へ婿入りしました。八一は学生時代にも父の郷里である中条を訪れています。昭和4年（早稲田高等学院教授時代）には中条小学校で奈良美術について講演を行っています。

昭和20年4月、東京空襲で罹災、養女キイ子とともに丹呉家へ疎開しました。この地にある曹洞宗、太總寺には歌集『観音堂』の一首を刻んだ歌碑が建てられています。また丹呉家から一時移り住んだ近くの観音堂は現在、百体観音とともにこの寺に移築されています。



會津八一歌碑（太總寺）